

本ファイルは受験生の便宜を図るために掲載しております。
出願は必ず募集要項を取り寄せて行ってください。
(このPDFには志願票等の必要書類は含まれておりません。)

平成 26 年 度

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

博士課程（前期課程）

（4月入学）

学生募集要項

名古屋大学大学院
国際言語文化研究科

国際言語文化研究科の目的は、「国際言語文化学における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、国際言語文化学における学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者を養成すること」(「名古屋大学大学院国際言語文化研究科規程」第2条)にある。国際言語文化研究科は、この目的を実現するための入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)として、国際言語文化に関する「基礎理解力」とともに「応用力」と「実践力」などの能力を評価する試験を行うことにより、入学者を選抜する。

平成26年度本学大学院国際言語文化研究科〔博士課程(前期課程)〕に入学を希望する学生を下記の要項により募集する。

1. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 日本の大学を卒業した者、又は平成26年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項第1号の規定により学士の学位を授与された者、又は平成26年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者、又は平成26年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者、又は平成26年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者、又は平成26年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者、又は平成26年3月31日までに修了見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- (8) 日本の大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程若しくは我が国において外国の大学の課程(その修了者が学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、又は平成26年3月31日までに修了見込みで、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めたる者
- (9) 本学大学院において、個別の入学資格審査(以下「個別審査」という。)により、日本の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる者で、平成26年3月31日までに22歳に達するもの

注) 出願資格(8)、(9)の適用を受けようとする者については、出願に先立って、個別の入学資格審査を行うので、あらかじめ本研究科入試担当に照会の上、平成25年7月12日(金)までに所定の申請書類を提出すること。

2. 募 集 人 員

- 日本語文化専攻 20名（うち社会人特別選抜若干名）
国際多元文化専攻 28名（うちメディアプロフェッショナルコース約7名、
社会人特別選抜及び英語高度専門職業人コース若干名）

3. 願 書 受 付 期 間

平成25年8月5日(月)から平成25年8月9日(金)まで。

受付時間は、午前9時から午後4時まで。

郵送する場合は、封筒の表に「大学院博士前期課程入学願書在中」と朱書し、書留郵便で郵送すること。8月9日(金)午後4時までに到着したものに限り受け付ける。

4. 出 願 書 類 等

入学志願者は、次の書類等を取りそろえて、下記(1)に提出すること。

(1) 入学志願票

本研究科所定の用紙に記入したもの。

(2) 卒業（見込み）証明書又は出願資格を証明する書類（出身学校が交付したものとし、私製複写による書類は不可。）

※ 氏名変更等により、証明書の記載氏名と現在の氏名が異なる場合、それを証明できる書類を併せて提出すること。

(3) 成績証明書（出身学校が交付したものとし、私製複写による書類は不可。）

※ 氏名変更等により、証明書の記載氏名と現在の氏名が異なる場合、それを証明できる書類を併せて提出すること。

注：中国の大学卒業者の方へ「(2), (3)に関して」

中国の大学卒業者のうち、本入学試験を合格した者には、中国政府直轄の財団である『中国教育部学位与研究生教育发展中心（CDGDC）』から名古屋大学大学院国際言語文化研究科へ卒業証明及び成績証明に関する認証書が直接送付されるよう手続きすることを義務づけている。合格した際には、以下の注意書きを読み、遺漏の無いよう手続きをすること。なお、提出期限は平成25年11月29日(金)【期限厳守】とする。

認証書の提出が無い場合、合格を取り消す場合がある。

『中国教育部学位与研究生教育发展中心（CDGDC）』への手続きについては、以下の点を注意すること。

- (1) 国際言語文化研究科の登録コードは「C900805」である。
- (2) 認証書は必ず「英文」で発行してもらうこと。（英文以外の認証書は受理しない。）
- (3) 認証書は、平成25年11月29日(金)【期限厳守】までに国際言語文化研究科に届くよう手続きをすること。CDGDCから本研究科に直接到着したもののみを受理

することとし、出願者本人が受け取り、自身で本学に提出した認証書は無効とする。

(4) 手続きの詳細については、CDGDCホームページ (<http://www.cdgdc.edu.cn/>) で確認すること。

※ この手続き以外の認証書は受理しない。

※※ 本研究科大学院研究生に在籍又は在籍した者で、大学院研究生の出願の際に本手続きによる卒業証明及び成績証明に関する認証書を提出した者については、別途提出を要しない。(卒業証明のみ提出した者は、成績証明に関する認証書のみの提出を求める。)

(4) 研究計画書等

a) 一般選抜

A 4判の用紙に、「入学後の研究計画」及び「その研究計画と出身大学(学部)で受けた教育内容との関連」について、日本語文化専攻は2,000字以内、国際多元文化専攻は2,000字以上4,000字以内で記述すること。

b) 社会人特別選抜(原則として、企業及び学校等で2年以上正規の職員として継続して勤務している者で、在職のまま入学しようとする者を対象とする。なお、該当するかどうか不明な場合には願書受付期間前に国際言語文化研究科入試担当に問い合わせること。)

A 4判の用紙に、2,000字前後で「志望の動機と志望分野の知識」について記述すること。

c) 英語高度専門職業人コース

A 4判の用紙に、「出身大学(学部)で受けた教育内容」と「入学後の研究計画」について、3,000字以内で記述すること。

(5) 所属長の承諾書(社会人特別選抜による志願者のみ提出)

本研究科所定の用紙に、在職のまま就学することを承諾する旨を記載した当該所属長の承諾書。

(6) 入学検定料 30,000円

ゆうちょ銀行において30,000円の普通為替証書を作成し、記入欄には何も記入しないで提出すること。なお、国費外国人留学生は検定料を必要としない。また、他大学から受験する国費外国人留学生は、国費外国人留学生である証明書を提出すること。

(7) 領収証書・領収証書(控)(本研究科交付の所定用紙により、氏名のみ記入のこと)

(8) 返信用封筒 2通(受験票送付用、連絡用)

本研究科所定の封筒に出願者本人の受信場所、郵便番号、氏名を明記すること。受験票送付用封筒には350円切手を貼付し、連絡用封筒は切手を貼付せずに提出すること。

(9) 宛名シール

(10) 住民票の写し(市区町村の窓口で交付を受けること。ただし、提出できない場合は、本研究科に問い合わせること。なお、日本国籍を有する者及び日本国永住許可を得ている者は不要。日本国外在住者はパスポートのコピーを提出すること。)

(11) 出願書類等の提出先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4- 5 (700) 名古屋大学大学院国際言語文化研究科入試担当
TEL (052) 789-4881 (直通)

5. 選 抜 方 法 等

選抜は、一般選抜、社会人特別選抜及び英語高度専門職業人コースに分けて行う。

メディアプロフェッショナルコースの選抜は、国際多元文化専攻の他講座と同様に一般選抜と社会人特別選抜に分けて実施する。

一般選抜は、一般学生、帰国子女、外国人留学生、社会人等を対象に実施する。

社会人特別選抜は、原則として企業及び学校等で2年以上正規の職員として継続して勤務している者で、在職のまま入学しようとする者を対象に実施する。なお、該当するかどうか不明な場合には願書受付期間前に国際言語文化研究科入試担当に問い合わせること。

(1) 一般選抜

学力検査は、筆記試験及び口述試験により行う。

ただし、第二志望講座として選んだ講座及びコースについては、口述試験を行わない場合がある。

日本語文化専攻の口述試験は筆記試験合格者を対象とする。

日本語文化専攻筆記試験合格者の発表：9月12日(木) 8:30, 文系総合館玄関

① 筆記試験

専攻	月日	時間	試験科目及び内容
日本語文化専攻	9月11日(水)	9:30~11:30	〔論述試験〕 日本語文化学、比較日本文化学、日本語教育学、応用言語学、現代日本語学、日本語教育方法論の研究遂行のための基礎学力を試験する。日本語で解答すること。
		13:00~14:30	〔外国語筆記試験〕 日本語文化学講座 比較日本文化学講座 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。 ただし、外国人留学生の場合は、日本語を選択すること。
			日本語教育学講座 応用言語学講座 現代日本語学講座 日本語教育方法論講座 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。 ただし、外国人留学生の場合は、母語を除く1外国語を選択すること。
国際多元文化専攻	9月11日(水)	9:30~11:30	〔論述試験〕 多元文化論、先端文化論、アメリカ言語文化、東アジア言語文化、ヨーロッパ言語文化、ジェンダー論、メディアプロフェッショナル論の研究遂行のための基礎学力を試験する。日本語で解答すること。
		13:00~14:30	〔外国語筆記試験〕 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。 ただし、外国人留学生の場合は、日本語を選択すること。

注1) 日本国永住許可を得ている外国人は、原則として一般学生と同様に取り扱う。ただし、学歴によっては、本研究科から受験外国語を指定する場合がある。

注2) 日本語文化学講座あるいは比較日本文化学講座を第一志望として受験するものは、日本語教育学講座・応用言語学講座・現代日本語学講座・日本語教育方法論講座を第二志望とすることはできない。また、日本語教育学講座・応用言語学講座・現代日本語学講座・日本語教育方法論講座のいずれかを第一志望として受験するものは、日本語文化学講座・比較日本文化学講座を第二志望とすることはできない。

② 口述試験

専攻	月日	試験時間
日本語文化専攻	9月12日(木)	9月12日(木)の筆記試験合格者発表時に、掲示にて時間を指定する。掲示場所：文系総合館及び全学教育棟本館東側入口
国際多元文化専攻		9月11日(水)8:30に、掲示にて時間を指定する。 掲示場所：全学教育棟本館東側入口

本ファイルは受験生の便宜を図るために掲載しております。
 出願は必ず募集要項を取り寄せて行ってください。
 (このPDFには志願票等の必要書類は含まれておりません。)

③ 試験場所

筆記試験：名古屋大学全学教育棟本館

口述試験：名古屋大学全学教育棟本館

(2) 社会人特別選抜

① 外国語試験

専攻	月日	時間	試験科目及び内容	
日本語文化専攻	9月11日(水)	13:00~14:30	[外国語筆記試験] 日本語文化学講座 比較日本文化学講座	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。 ただし、外国人留学生の場合は、日本語を選択すること。
			日本語教育学講座 応用言語学講座 現代日本語学講座 日本語教育方法論講座	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。 ただし、外国人留学生の場合は、母語を除く1外国語を選択すること。
国際多元文化専攻	9月11日(水)	13:00~14:30	[外国語筆記試験] 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。 ただし、外国人留学生の場合は、日本語を選択すること。	

注1) 日本国永住許可を得ている外国人は、原則として一般学生と同様に取り扱う。ただし、学歴によっては、本研究科から受験外国語を指定する場合がある。

注2) 日本語文化学講座あるいは比較日本文化学講座を第一志望として受験するものは、日本語教育学講座・応用言語学講座・現代日本語学講座・日本語教育方法論講座を第二志望とすることはできない。また、日本語教育学講座・応用言語学講座・現代日本語学講座・日本語教育方法論講座のいずれかを第一志望として受験するものは、日本語文化学講座・比較日本文化学講座を第二志望とすることはできない。

② 口述試験

専攻	月日	試験時間
日本語文化専攻 国際多元文化専攻	9月12日(木)	別途郵送により、文書にて時間を指定する。

③ 試験場所

外国語試験：名古屋大学全学教育棟本館

口述試験：名古屋大学全学教育棟本館

本ファイルは受験生の便宜を図るために掲載しております。
 出願は必ず募集要項を取り寄せて行ってください。
 (このPDFには志願票等の必要書類は含まれておりません。)

(3) 英語高度専門職業人コース

① 英語試験

専攻	月 日	時 間	試 験 科 目
国際多元文化専攻	9月11日(水)	13:00~14:30	英語筆記試験

② 口述試験

専攻	月 日	試 験 時 間
国際多元文化専攻	9月12日(木)	別途郵送により、文書にて時間を指定する。

③ 試験場所

英語試験：名古屋大学全学教育棟本館

口述試験：名古屋大学全学教育棟本館

(4) 配点表

選抜方法等 専攻等	一 般 選 抜		社 会 人 特 別 選 抜		英 語 高 度 専 門 職 業 人 コー ス	
	科 目 名	配 点	科 目 名	配 点	科 目 名	配 点
日 本 言 語 文 化 専 攻	論 述 試 験	200	—	—	—	—
	外 国 語 試 験	100	外 国 語 試 験	100	—	—
	口 述 試 験	200	口 述 試 験	200	—	—
国 際 多 元 文 化 専 攻 (メディアプロフェッショナルコース除く)	論 述 試 験	100	—	—	—	—
	外 国 語 試 験	150	外 国 語 試 験	150	英 語 試 験	150
	口 述 試 験	100	口 述 試 験	100	口 述 試 験	150
国 際 多 元 文 化 専 攻 メディアプロフェッショナルコース	論 述 試 験	100	—	—	—	—
	外 国 語 試 験	150	外 国 語 試 験	150	—	—
	口 述 試 験	100	口 述 試 験	100	—	—

6. 合格発表

平成25年9月13日(金)17:00頃に、文系総合館玄関に掲示発表をする。

また、本研究科ホームページ (<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>) においても、一定期間発表する。

なお、郵送により本人にも通知する。

7. 入学手続

手続日は、合格者に対し文書により通知する。

8. 入学料及び授業料

入 学 料	282,000 円	
授 業 料	前期分 267,900 円	後期分 267,900 円
	(年額 535,800 円)	

(注) 入学時及び在学中に学生納入金の改定が行われた場合には、改定時から新たな納入金額が適用される。

9. そ の 他

- (1) 納入した入学検定料は、いかなる理由があっても返還しない。また、領収証書は志願票受理時には発行せず受領票送付時に同封する。
- (2) 試験場へは、試験開始20分前に到着し係員の指示を受けること。(試験場の入場開始は9:00を予定している。)
- (3) 論述試験、外国語筆記試験の試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後30分以内に限り、受験を認める。
- (4) 名古屋大学においては、構内への車両の入構規制を実施しているため、受験の際は、公的交通機関を利用すること。
- (5) 過去の志願者数、受験者数、合格者数は、名古屋大学大学院国際言語文化研究科ホームページ(<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>)に記載されている。
- (6) 過去の入試問題は、文系総合館1F 文系教務課(国際言語文化研究科窓口)で閲覧可能(コピー不可)。なお、窓口の開設時間は、土曜日曜祝日及び入学試験日前日を除く平日の8:30から17:00まで。
- (7) 携帯電話やPHSを時計の代わりに使用することはできない。また、辞書の持ち込みもできない。
- (8) 障がいのある者で、受験上・修学上特別の配慮が必要な者は、平成25年7月12日(金)までに国際言語文化研究科入試担当に問い合わせること。
- (9) 個人情報の取扱いについて
出願にあたって提供された氏名、住所その他個人情報は、入学者選抜、合格発表、入学手続き及び入学後の学務業務における学籍・成績管理を行うために利用する。
取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には使用しない。

※不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、次のホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。

- ◇ 名古屋大学大学院国際言語文化研究科ホームページ
URL <http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>
- ◇ 連絡窓口
文系教務課 国際言語グループ 入試担当
TEL 052-789-4881

講座及びその内容

1. 日本言語文化専攻

講座名	内 容
日本言語文化学	日本言語文化に関わる諸事象を異文化接触の観点から共時的・通時的に分析し、その個別性と普遍性を究明していく方法論を確立するとともに、学際的分野として、現代の国際社会に現実的な意味を持つ日本言語文化学の構築を目指す。
比較日本文化学	日本文化を異文化と比較する視点から捉え、文化・文学批評理論、文化記号論などの方法論を踏まえて、様々な文化現象についての分析・記述を行い、新たな比較日本学の可能性を追究する。
日本語教育学	日本語教育学原論を中心に置き、教育の素材となる日本語そのものを運用及び構造の二側面から追求する。また、さまざまな日本語教授法の背景をなす理論、日本語習得に関わる種々の要因を検討し、理論面、実践面から日本語教育のあり方を追究していく。
応用言語学	言語教育と言語学習に関する実践的理論を言語類型論、対照言語学、語用論、社会言語学、心理言語学、言語習得論、文化化理論、(応用)認知言語学、機能主義的言語学、統計学、コーパス言語学、言語接触研究等の成果を踏まえて追究する。特に、日本語教育の実践に理論的な基礎を与える。
現代日本語学	講義及び演習を通して、現代日本語の音声学・文法論・意味論(認知意味論・形式意味論)・語用論等、日本語学の主要分野の必須項目・研究方法を体系的に習得し、独創的な日本語研究を行うための高度な能力を養うことを目指す。
日本語教育方法論	日本語教育の基礎となる実際の日本語使用場面における談話分析や言語習得研究に基づき、多様な背景をもつ日本語学習者のニーズに応じたコースデザイン、教育方法・評価のあり方を探求する。教育メディアを活用するための基礎知識を学ぶとともにコンピュータ技術を駆使した日本語教育の方法を教材開発及び演習を通じて追究する。

2. 国際多元文化専攻

講座名	内 容
多元文化論	世界の諸地域における多文化社会を、言語文化の視点から、階級・民族・人種・性差などを踏まえつつ多角的に捉え、異文化の共生を理解するための理論的基盤を構築する。
先端文化論	世界の諸地域に新たに生じつつある先端的文化の諸相を言語文化的視点から捉え、新しい社会に対応できる新たな世界認識を確立するとともに、時代と文化形成との連関に関する理論的基盤を構築する。
アメリカ言語文化	北米を中心とする言語文化の諸相を批評的・学際的に分析する。また、英語教育のあり方を科学的・実践的に追究する。
東アジア言語文化	東アジア諸地域における言語文化の諸相を現代社会の中に捉え、中国、韓国、朝鮮、ロシアの言語文化の基層構造を検証し、それに関わる諸問題に対する現実的な文化理論を構築するとともに、実践的な方策を究明する。
ヨーロッパ言語文化	ヨーロッパにおける諸々の社会と文化について、その地域性・歴史性・グローバル化の影響などに注意を払いながら分析するとともに、理論構築を目指す。
ジェンダー論	フェミニズム、ジェンダー、セクシュアリティに関する研究を基盤として、文学、文化、経済、社会心理における事象と表象を批評的・学際的に検証する。それを通じて、社会の既成概念にとられない人材育成と研究成果の社会的還元を目指す。

3. 国際多元文化専攻メディアプロフェッショナルコース

コース名	内 容
メディアプロフェッショナルコース	高度情報化社会の先端で、メディアはいま何に挑み、どう課題を克服しつつあるか。新聞、テレビをはじめ、インターネット、情報技術、広告、広報活動などの現場で奮闘中の多彩な企業人も教授陣に加え、即戦力となる人材を養成するとともに、批判的かつ創造的なメディア・文化研究を目指す。

名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻 指導可能領域

〔日本語文化学講座〕

日欧比較文化論、異文化コミュニケーション、比較文学・比較文化、文化史、医学史、
近現代日本文学、詩、アニメーション、その他文化関連領域

〔比較日本文学講座〕

比較文学・比較文化、近代西欧文化受容史、近代女子教育史、比較児童文学及び文化、
在日朝鮮人文学、古代外来文化受容史、日中比較家族史

〔日本語教育学講座〕

日本語教授法、言語教授法一般、第2言語としての日本語習得研究、中間言語語用論、
談話分析・会話分析、現代日本語の意味・文法研究、日本語の誤用分析、日本語と他言
語の対照研究、日本語の文法教育

〔応用言語学講座〕

現代日本語の統語論・意味論・語用論、日本語と韓国語・中国語・東南アジア言語、ヨ
ーロッパ言語を含む他言語との言語類型論的研究・対照言語学的研究、文法化理論、(応
用) 認知言語学、機能主義的言語学、心理言語学、社会言語学、日本語の話し言葉・書
き言葉についてのコーパス言語学的研究、日本語の言語接触・借用語研究

〔現代日本語学講座〕

音声学、日本語音声教育、意味論（意味論一般、形式意味論、認知意味論を含む）、認
知言語学、文法論、日韓対照研究

〔日本語教育方法論講座〕

日本語教育方法論、日本語教育教材論、日本語教育評価論、第二言語運用論、外国人児
童の言語習得研究、接触会話の研究、地域日本語教育の研究、コンピュータ支援教育方
法論、日本語CALL教材開発

名古屋大学大学院国際言語文化研究科国際多元文化専攻 指導可能領域

〔多元文化論講座〕

文化記号論、コノテーション論、メディア文化論（広告、女性誌）、19世紀末ドイツ文化論（芸術誌分析）、ドイツ語学、15-17世紀西欧文化芸術、結婚・離婚思想、近現代フランス思想、ヨーロッパ文化論、比較文学、比較文化、スペイン語学、ポルトガル語学、日本文化の海外発信

〔先端文化論講座〕

表象文化論、表象文化思想論、思想史、政治理論、イデオロギー論、音楽哲学、前衛芸術論、西洋舞踊史、身体文化研究、ドイツ文化社会史、ドイツ語圏文学、世紀転換期の芸術文化

〔アメリカ言語文化講座〕

アメリカ文学、アメリカ文化、英語教育、eラーニング、英語教授法、第二言語習得論

〔東アジア言語文化講座〕

言語類型論、アスペクト論、ロシア語学、北西カフカース諸語、中国文学、日中比較文学、世界華文文学、国際理解、中国語学、現代中国語文法、日中対照研究、中国語教育、中国語教授法、朝鮮・韓国語学、朝鮮・韓国語教育、東アジア言語の音声学・音韻論、日本語と朝鮮・韓国語の対照言語学的研究

〔ヨーロッパ言語文化講座〕

イギリス小説、ヴィクトリア朝文学、英国史、イギリス文化史、イギリス社会史、西洋演劇、演劇理論、シェイクスピア、マイノリティ地域・言語・文化、エスニシティ、ナショナリズム、世紀転換期ドイツ語圏の文化・芸術、ロマン派以降のドイツ語圏の文学、村上春樹

〔ジェンダー論講座〕

フェミニスト批評・理論、フェミニスト経済学、クィア批評・理論、文学、経済、労働、社会政策・制度、ポピュラーカルチャー、視覚文化、インターネット、オンライン・コミュニケーション論、メディア社会心理、若者論、アメリカ文学、中国・台湾文学、中国・台湾女性史、台湾映画、中国近現代舞踊史

〔メディアプロフェッショナルコース〕

メディア史、メディア論、放送を通して見る欧米社会論、政治学、国際関係論、政治コミュニケーション論、メディア言説分析、メディア英語、ジャーナリズム、新聞・放送・ニューメディア・情報通信関連の研究、メディア・リテラシー、ローカルメディア研究、デジタル・ストーリーテリング

〔英語高度専門職業人コース〕

英語教育、英語教授法、eラーニング、第二言語習得論、翻訳技術論、イギリス文学、イギリス文化、アメリカ文学、アメリカ文化、西洋演劇、演劇理論、シェイクスピア、比較文学、比較文化、文化研究